

事変ニ關係アル聯盟規約條項ノ解説  
聯盟規約ハ紛争ノ平和的處理法ヲ左ノ如ク規定ス  
昭六〇、一五  
參謀本部第三部

ノ規約第十一條ニヨリ平和ヲ擁護シ戦争ノ脅威  
アル國際關係ノ危機ヲ緩和ス

2. 規約第十二、第十三及第十五條ニヨリ國交断絶

ニ至ルノ虞アル紛争ニ對シ解決ヲ齎ス

但實際ニ當テハ前記兩者ノ區別ハ常ニ明白ナ

ルモノニラスシテ或ハ理事會ハ特ニ規約第何條

ト明示スルニトナク紛争ノ討議スルコトアリ又紛

争當事國ヨリ數ヶ條ヲ一括シテ問題ヲ提起

スルコトアリ他面理事會ハ第十一條ニヨリ問題ヲ

取扱ヒツツ自然成行言リ當事國ノ紛争ニ

關與スル勸告ヲ發スル場合アリ

規約第十一條ニ就テ  
規約第十一條左ノ如シ

一 戦争又ハ戦争ノ脅威ハ聯盟國ノ何方ニ直接  
ノ影響アルト否トヲ問ハス總テ聯盟全體ノ  
利害關係事項タルコトヲ茲ニ聲明ス仍テ聯  
盟ハ國際ノ平和ヲ擁護スル爲適當且有効ト  
認ムル措置ヲ執ルヘキモノトス此種ノ事變發生  
シタルトキハ事務總長ハ何方ノ聯盟國ノ請求  
ニ基キ直ニ聯盟理事會ノ會議ヲ招集スヘシ  
二 國際關係ニ影響アル一切ノ事態ニシテ國際ノ  
平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ  
攪乱セントスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟  
理事會ノ注意ヲ喚起スルハ聯盟各國ノ友誼

的權利ナルコトヲ併セテ茲ニ聲明ス

第一項ハ戦争若クハ戦争ノ脅威ノ場合ヲ目標トシ  
國際ノ平和ヲ擁護スル爲適當且有效ト認ムル措  
置ヲ執ルヘキ義務ヲ聯盟ニ課セルモノニシテ尚理事  
會ハ規約第七條ノ四ハ聯盟理事會ハ聯盟ノ行動  
範圍ニ屬シ又ハ世界ノ平和ニ影響スル一切ノ事項ヲ  
其會議ニ於テ處理スニヨリ紛争問題ヲ研究  
審議シ極メテ廣汎ナル形式ヲ以テ平和擁護上  
適當ト認ムル措置ノ選擇ニ就テ大ナル理由ヲ許  
容セルモノナリ

第二項ハ第一項程重大ナラザル場合即チ國際關  
係ニ影響スル一切ノ事態ヲ意味スルモノニシテ未ダ戰  
争ノ脅威存在セザルモ或ハ脅威ト化スル虞アル如

0135

キ場合聯盟總會又ハ理事會ノ注意ヲ喚起ス  
ヘキモノトナシ此場合總會又ハ理事會ハ自己ノ權  
能ニ從ヒ適當ノ措置ヲ執ルヘキモノ之ヲ此條項ニ  
於テ義務的ニ規定スルトヨクナシ  
今次事變ヲ聯盟ノ問題トナセシハ支那ニシテ單  
ニ第十一條ニ據ル旨ヲ述ヘタルニミナルヲ以テ其第  
一項ナリヤ第二項ナリヤハ明カナラス然ルニ聯盟事  
務局員(佛人)ニ對シ問題提出ノ理由ヲ第何條ニ  
據ルヘキヤヲ支那代表ヨリ問ヒ合セ之ニ對シ該局  
員ハ第十一條ノニ據ルヘキヲ教示シタル事實アリ  
而シテ聯盟ニ於テハ事變力規約ノ何條ニ據ルヤ  
ヲ研究審議シタル事實ナキヲ以テ理事會力最  
初此問題ヲ取扱フニ當リ唯帝國ハ事件ヲ以テ戰

争又ハ戦争ノ脅威アルモノト認メサルヲ以テ理事會  
力此問題ニ関與スルヲ不可トスル論ハ成立セサルハ  
ク何等カ決議宣言等ノ措置ヲ執ル場合我ニ  
不利ナル事態ノ發生ニ際シ之ヲ排撃スルヲ當  
然トス

### 第十二條ニ就テ

第十二條ハ國交断絶ニ至ルノ虞アル紛争發生セル  
場合ノ聯盟國ノ義務ニ就テ一般的规定ヲ示セル  
モノニシテ第一項左ノ如シ

一聯盟國ハ聯盟國間ニ國交絶對ニ至ルノ虞アル  
紛争發生スルトキハ當該事件ヲ仲裁裁判  
若ハ司法的解決又ハ聯盟理事會ノ審査ニ付  
スヘク且仲裁裁判官ノ判決若ハ司法裁判官ノ判

0137

決後又ハ聯盟理事會ノ報告後三月ヲ經過スル迄如何ナル場合ニ於テモ戦争ニ訴ヘサルコトヲ約ス

第十三條ニ就テ

第十三條ハ司法的解決又ハ仲裁裁判ニ関シ規定セルモノニシテ左ノ如シ

一 聯盟國ハ聯盟國間ニ仲裁裁判又ハ司法的解決ニ付シ得ト認メル紛争ヲ生シ其紛争カ外交手段ニヨリテ満足ナル解決ヲ得ルコト能ハサルトキハ當該事件全部ヲ仲裁裁判又ハ司法的解決ニ付スヘキコトヲ約ス

二 條約ノ解釋、國際法上ノ問題、國際義務ノ違反トナルヘキ事實ノ存否並該違反ニ對スル賠償

ノ範圍及性質ニ關スル紛争ニ般ニ仲裁裁判又  
ハ司法的解決ニ付シ得ル事項ニ屬スルモノナルコト  
ヲ聲明ス

第二項ニ關スル紛争ハ大体ニ於テ政治問題ハ仲裁  
裁判ニ法律向題ハ常設國際司法裁判所附  
議スルコトナリ此場合聯盟國ハ一切ノ判決ヲ誠  
實ニ履行スヘキモノトス從テ滿蒙ニ謀懸案ハ第  
二項ノ適用ヲ得クヘキモノトシ支那側ヨリ此條項  
ニ據ル解決ヲ要望シ來ル場合ナキニアラス然レ  
トモ第一項ニ示ス如ク「此紛争カ外交手段ニ依リ  
テ満足ナル解決ヲ得ルコト能ハサルトキ」初メテ此  
條項ヲ適用スヘキモノニシテ外交交渉カ第一事  
件解決ノ爲努力セラルヘキヲ意味セルモノナルニ深

ヲ留意スルヲ要ス

第十五條ニ就テ

聯盟國間ニ國交斷絶ニ至ルノ虞アル紛争發生シ  
第十三條ニ依ル仲裁裁判若ハ司法的解決ニ付セラ  
レサル場合一聯盟規約ハ聯盟國ニ對シテ之ヲ強制ス  
右紛争ハ第十五條ニヨリ理事會ニ付託スヘキモノナ  
ス而シテ理事會ノ任務ハ裁判官又ハ仲裁官ト全然  
異リ理事會ハ解決案ヲ強制スル權能ヲ有ス  
單ニ之ヲ當事國ニ提案スルニ止マリ當事國ハ法律上  
其採否ニ関シ自由ヲ保留スルモノニシテ即チ理事  
會ハ一ノ調停者ニ過キ又其手續ヲ述レハ左ノ如シ  
事務總長ハ十分ナル取調及審理ニ必要ナル一切準備  
ヲナス而シテ此目的ノ爲紛争國ハ成ルヘク速ニ當該



事件ニ関スル陳述書ヲ一切ノ關係事實及書類ト  
共ニ事務總長ニ提出スヘク理事會ハ直ニ其公表ヲ  
命スルコトヲ得ルモノトス

此クテ理事會ハ當事國間ノ調停ニ努メ若シ  
奏效セシ場合ハ理事會ノ任務終了ス即チ理事  
會ハ其適當ト認ムルトコロニ依リ當該紛争ニ關ス  
ル事實及説明並其解決條件ヲ記載セル調書  
ヲ公表ス若シ紛争解決ニ至ラサルトキハ報告ヲ作  
製シ之ヲ公表ス右報告カ全會ニ致スハ過半数ノ  
表決ヲ得タル場合ニ於テ效力ヲ發生スルモノニシテ  
第十五條ノ六ハ「聯盟理事會ノ報告カ紛争皆  
事國ノ代表者ヲ除キ他ノ聯盟理事會員全部ノ  
同意ヲ得タルモノナルトキハ聯盟國ハ該報告書ノ

勸告ニ應スル紛争當事國ニ對シ戦争ニ訴ヘサル  
コトヲ約スル旨規定セルモ報告ノ勸告ヲ遵守スル  
義務ヲ生セシモノニアラス單ニ報告書ノ勸告ニ應  
スル當事國ニ對シ戦争セサルコトヲ紛争當事國  
ノミナラス一般聯盟國ニ義務トシテ課セルモノナリ  
若シ紛争當事國ヲ除キ他ノ聯盟理事會會員全  
部ノ同意アル報告書ヲ得ルニ至ラサルトキハ勿論紛  
争當事國及爾餘ノ聯盟諸國ハ完全ナル行動ノ  
自由ヲ保有スルモノニシテ同條七ニ聯盟國ハ正義行  
動ヲ維持スル爲必要ト認ムル處置ヲ執ルノ權利  
ヲ留保スル旨規定ス  
紛争問題ハ理事會ヨリ之ヲ總會ニ移スコトヲ得ル  
ヲ以テ此場合ハ概テ理事會ノ要領ニヨリ處理セラル

ヘキモノトス

支那側ハ事件ヲ第十五條ニ據リ處理センコトヲ要  
望シアルカ如キモ第十一條ニ就テ述ヘタル如ク事件ノ  
解決ハ外交手段ニ依ルヲ第一歩トサスヘキニ拘ラス支  
那ハ自ラ外交接觸ヲ忌避シ事件ヲ重大化スルモノ  
ナリ即チ外交交渉モ行ハスシテ國交斷絶ニ至ルノ  
虞アリトサスハ支那カ自ラ求メテ開戦ニ導キカント  
スル意圖アルモノト断スルヲ得ヘク此クテハ聯盟ノ  
存在ハ平和ニ其獻スルヨリ却テ事態ヲ紛糾セン  
ニル有害ノ機關ニ隨スルモノト云フヘシ  
以下國際聯盟ニ於ケル紛争解決ニ関スル事柄  
ヲ參考迄ニ左ニ記述セン  
ノ一九二〇年「スイーデン」フィンランド」兩國間ニア

6

0143

1. ランドレ島ノ歸屬問題ニ関シ紛争ヲ惹起シ  
理事會ノ決議ニヨリ平和的ニ解決セリ
2. 一九二〇年波蘭リスミア間ニ國境問題ニ関シ  
紛争ヲ生シ理事會ハ百方手段ヲ盡シテ解決  
策ヲ講セシモ何レモ失敗ニ終リ殊ニワイルナ市  
ノ歸屬ニ就テ事態ハ悪化シ戦争状態ニ陥リ  
依テ理事會ハ兩國ノ間ニ立テ或ハ現地調査ノ  
手段ヲ講スル等調停ノ勞ヲ執リシモ結局ニ於  
テ兩國直接交渉ヲ勸告スルニ至レリ
3. 一九二二年獨波國境問題タル上部ヨレシアノ  
問題ハ理事會ノ斡旋ヨリ解決セリ
4. 一九二二年「アルバニア」及「ユーゴスラヴィア」ハ國境  
問題ニ端ヲ發シ塞國軍隊一部「アルバニア」

侵入シ事件ヲ惹起セリ規約第十一條ニ依テ理事會ノ活動ヲ見ルニ至リ理事會ハ第十六條ノ經濟封鎖ヲ以テユーゴスラヴィアヲ威嚇シ遂ニ其決定ニ服セシメタリ

5. コルフ島問題ハ伊國及希臘間ノ紛争ニシテ一九二三年八月伊國將校ノ希臘領土内ニ於テ暗殺セラレタルヲ動機トシテ伊國ハ最後通牒ヲ希臘政府ニ送達ス然ルニ希臘ハ之ニ從ス聯盟ニ訴ヘ伊國ハ希臘ノ回答ヲ以テ不滿トシ軍隊ヲ派遣シコルフ島ヲ占領ス依テ聯盟ノ問題トナラントセシモ同事件ハ既ニ大使會議ニ於テ審議中ナルヲ理由トシテムツツリニ氏ノ如キ聯盟脱退ヲ以テ威嚇シ大體伊國ノ主張ニ準據シ問題ヲ解決セリ

0145

6. 一九二五年希臘ノ歩哨殺害ニ端ヲ發シ希臘兩國ハ國境ニ於テ西軍ヲ集中シ衝突ノ危險ヲ豫期セラルルニ至ルヤ理事會ニ於テ緊急ノ措置ヲ執リ問題解決スルニ至ル

ク一九二六年九月英國ノ砲 萬縣ニ向ヒ發砲シ數百ノ市民ヲ殺傷ス更ニ英國商船揚子江ヲ急速ニ航行シ多數ノ支那船沈没シ百餘名ノ市民溺死セシ事實アリ支那代表ハ同月ノ聯盟理事會ニ於テ一ノ聲明ヲ發セシモ英國代表ハ英支相互ノ交渉ニ依テ平和的ニ解決スルニ問題ナリトシテ一蹴シ去レリ

8. 一九二六年五月十日支那南京政府代表ハ聯盟事務總長ニ對シ日本山東出兵ヲ敘シ聯盟ノ發動

0146

ヲ促ス訴ヲ提起ス事務總長ハ之ヲ各國政府  
ニ移牒ス越テ同月二十七日日本政府ハ同シテ事  
務總長ニ對シ事件ノ真相ヲ説明スル爲聲  
明書ヲ發シ之ヲ各國政府ニ移牒セメタリ  
爾後理事會及總會等ニ於テ何等問題  
ナラス

9. 尚二國間ノ紛争ニ關與シ解決ノ效果ヲ收メ  
タルモノアルモ大ナル問題トナスニ至ラス又一九二三年  
ニ於ケル佛國ノルビル占領ハ理事會ノ審議  
ニ上ラレントスル勢アリシモ佛國ノ輿論ハ獨逸  
ノ條約違反ニ對スル佛國軍隊ノ行動ヲ審議  
スル理事會ハ断ニテ認容シ得ヘカラストナセルカク  
メ理事會ハ何等ノ措置ヲ執ルコトナカリキ

要スルニ國際聯盟機關ノ發動ニ依リ事件ノ解決  
ヲ見タルハ主トシテ小國間ニモシテ大國相互間ノ  
モノヲ認メス大國間ノモノハ極メテ稀有ナリトス  
而シテ小國ハ大國トノ紛爭事件ヲ直ニ聯盟ニ訴ヘ  
ントシ大國ハ聯盟ノ干與ヲ拒否スルヲ通則トス

0148